

MIC Worship Service – 2022.08.21

Title: “Once Alienated, But Now Reconciled” タイトル: 神様からの離反、そして和解

Text: Colossians 1:21~23, NIV テキスト: コロサイ人への手紙1章21~23節(新改訳)

21 Once you were alienated from God and were enemies in your minds because of your evil behavior. 22 But now he has reconciled you by Christ’s physical body through death to present you holy in his sight, without blemish and free from accusation— 23 if you continue in your faith, established and firm, and do not move from the hope held out in the gospel. This is the gospel that you heard and that has been proclaimed to every creature under heaven, and of which I, Paul, have become a servant.

21 あなたがたも、かつては神を離れ、心において敵となって、悪い行いの中にあつたのですが、22 今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させていただきました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。23 ただし、あなたがたは、しっかりとした土台の上に堅く立って、すでに聞いた福音の望みからはずれることなく、信仰に踏みとどまらなければなりません。この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられているのであって、このパウロはそれに仕える者となったのです。

Introduction

The U.S. Civil War was carnage. **Ulysses Grant**, an American military officer and politician who led the Union Army to victory died (in 1885). **Jefferson Davis**, president of the Confederate States and Grant’s enemy also died (in 1889). As a demonstration of *reconciliation*, their widows, Julia Grant and Varina Davis, settled near each other. The once presumed enemies became closest of friends!

[Source:

<https://www.atlasobscura.com/articles/how-first-ladies-on-opposing-sides-of-the-civil-war-forged-a-n-unlikely-bond>]

アメリカの南北戦争は殺戮の恐ろしさを、まざまざと見せつけた戦争となりました。北軍を勝利に導いたアメリカの軍人・政治家ユリシーズ・グラントは1885年に死去し、南軍の大統領で、グラントの敵であったジェファーソン・デイビスも1889年に亡くなりました。その後、ジュリア・グラントとヴァリナ・デイヴィスという残された2人の未亡人は、和解の証として、互いの近くに住居を構えました。敵同士と思われていた二人が、最も親しい友人となったのです。

[参照:

<https://www.atlasobscura.com/articles/how-first-ladies-on-opposing-sides-of-the-civil-war-forged-a-n-unlikely-bond>]

In today’s study we will examine the Colossians’ spiritual condition as “**Once Alienated, But Now Reconciled**” to God as described in this New Testament passage. Lord-willing, it will strengthen our understanding and have greater appreciation of our own reconciliation with God.

今日の学びでは、この新約聖書の箇所に書かれている、コロサイの信徒が「かつては離れていたが、今は和解した」という霊的状态をみていきましょう。主がお望みなら、私たち自身の、神との和解について、より理解を深めることができ、感謝できるようになるでしょう。

I. The Colossian believers’ journey to salvation – verses 21~23

I. コロサイの信者の救いへの道のり 21節~23節

The Apostle Paul directs our attention to three (3) phases or stages in their spiritual journey.

使徒パウロは、彼らの霊的な道のりにおいて、3つのステージ、または段階に注意を促しています。

まず、霊的な道のりの第一段階として、コロサイ人たちの『キリストの救いを受ける前の生活』について見ていきましょう。

A. Phase 1: Their life *before* receiving Christ's salvation

A. 第1段階: キリストの救いを受ける前の生活

Paul said the Colossians were both ***alienated from*** and ***enemies*** of God. The word "***alienated***" comes from the original Greek word, ***apallotrioo***, which means "*to alienate, estrange; to be shut out from one's fellowship and intimacy.*"

パウロは、コロサイの人々は神から離れた神の敵であると言いました。『離れた』という言葉は、ギリシャ語の原語である「アパロトリオ」という言葉に由来し、「疎外する、疎遠にする、交わりや親密さから断絶する」ということを意味します。

ILLUSTRATION: In her youth, poet **Elizabeth Barrett** had been watched over by her tyrannical father. When she and Robert Browning were married, their wedding was held in secret because of her father's disapproval. After the wedding, the Brownings sailed for Italy, where they lived for the rest of their lives. But even though her parents had disowned her, Elizabeth never gave up on the relationship. Almost weekly she wrote them letters. Not once did they reply. After 10 years, she received a large box in the mail. Inside, Elizabeth found all of her letters; not one had been opened! Today those letters are among the most beautiful in classical English literature. Had her parents only read a few of them, their relationship with Elizabeth might have been restored. [Source: *Daily Walk*, May 30, 1992].

詩人エリザベス・バレットは、若い頃、暴君のような父に監視されながら育ちました。エリザベスは、夫であるロバート・ブラウニングと結婚した時も、父親の反対で結婚式は密かに行われました。結婚後、ブラウニング夫妻となったエリザベスとロバートは、イタリアに渡り、そこで生涯を過ごしました。しかし、たとえ両親に勘当されても、エリザベスは決してロバートとの夫婦関係をあきらめようとはしなかったのです。結婚後、エリザベスは父親に毎週のように手紙を出しましたが、父親からは一度も返事はありませんでした。そして10年後、郵便で大きな箱が送られてきたのです。中に入っていたのは、一通も開封されていない、彼女が父親に送った手紙の全てでした。その手紙は、今日、古典的な英文学において、最も美しい文章のひとつに数えられています。もし当時、エリザベスの両親が彼女の手紙のうちのいくつかを読んだとしたら、エリザベスとの関係は修復されていたかもしれません。(出典:『デイリーウォーク』1992年5月30日号)

On the other hand, the word "***enemies***" is from ***echthros***. It describes that which is "*hated, odious, hateful; hostile and opposing another.*" It refers to people who are at enmity with God because of their sin.

一方、「敵」という言葉は、『エクスロス』という言葉に由来しています。これは、『嫌われる、憎まれる、敵対する、反対する』ことを意味しています。ですから、『敵』とは、罪のために神と敵対している人々のことを指しています。

Why was this so? Why were they alienated and were enemies of God? Because in both THOUGHT and DEED they were sinners! As Paul writes: "***... enemies in your minds because of your evil behavior.***"

では、なぜそうなったのでしょうか？なぜコロサイの人々は神から離され、神の敵となったのでしょうか？それは、彼らが考えと行動の両方において罪人であったからです。パウロが書いているように、彼らは、「心において敵となって、悪い行いの中にあっただけ」からなのです。

ILLUSTRATION: The people who lived on earth until Noah's day earned their punishment as the Bible records in Genesis.

聖書が創世記に記録しているように、ノアの時代に地上に住んでいた人々は、罰を受けました。

人々の罪については、創世記6章に次のように書かれています。

Genesis 6:5 - *The Lord saw **how great the wickedness of the human race** had become on the earth, and that every **inclination of the thoughts of the human heart was only evil all the time.***

創世記 6章5節—5 主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。

This was also the spiritual condition of people during the time of the Prophet Jeremiah.

悪いことに傾くという人々の霊的な状態は、預言者エレミヤの時代においても同様だったのです。エレミヤ書7章23、24節をお読みします。

Jeremiah 7:23~24 - ²³ *but I gave them this command: Obey me, and I will be your God and you will be my people. Walk in obedience to all I command you, that it may go well with you.* ²⁴ *But they did not listen or pay attention; instead, **they followed the stubborn inclinations of their evil hearts.** They went backward and not forward.*

エレミヤ書 7章23、24節

23 ただ、次のことを彼らに命じて言った。『わたしの声に聞き従え。そうすれば、わたしは、あなたがたの神となり、あなたがたは、わたしの民となる。あなたがたをしあわせにするために、わたしが命じるすべての道を歩め。』

24 しかし、彼らは聞かず、耳を傾けず、悪いかたくなな心のはかりごとのままに歩み、前進するどころか後退した。

次に、コロサイ人たちの霊的な道のりの第二段階として、『神と和解した彼らの人生』についてみていきましょう。

B. Phase 2: Their life now that they have been reconciled to God

B. 第2段階: 神と和解した彼らの人生

Their reconciliation with God comes at the cost of Christ's own life, **“through his blood, shed on the cross”** (v.20). And, it's not just a few drops of blood. The Apostle Paul further explains that it meant **“by Christ's physical body through death”** (v.22). Brothers and sisters, Jesus suffered IN THE FLESH, He bled and died, something some people in those days denied.

神との和解は、「十字架の血によって」(20節)、キリスト自身の命を代償にしてみたらされました。しかも、それは単なる数滴の血ではありませんでした。使徒パウロはさらに、「御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって」(22節)もたらされた和解だと説明しています。兄弟姉妹の皆さん、イエスは肉体の苦しみによって、血を流し、死なれたのです。しかしその当時、ある人々は、イエスの人としての肉の苦しみを次のように否定したのです。イエスの肉の死について書かれている聖書箇所をお読みします。

2 John 7 - *I say this because **many deceivers, who do not acknowledge Jesus Christ as coming in the flesh,** have gone out into the world. Any such person is the deceiver and the antichrist.*

ヨハネの手紙第二7節—7 なぜお願いするかと言えば、人を惑わす者、すなわち、イエス・キリストが人として来られたことを告白しない者が大ぜい世に出て行ったからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです。

Hebrews 2:9 - *But we do see Jesus, who was made lower than the angels for a little while, now crowned with glory and honor because **he suffered death, so that by the grace of God he might taste death for everyone.***

ヘブル人への手紙 2章9節—9 ただ、御使いよりも、しばらくの間、低くされた方であるイエスのことは見えています。イエスは、死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになりました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。

Hebrews 2:14 - Since the children ***have flesh and blood, he too shared in their humanity so that by his death*** he might break the power of him who holds the power of death—that is, the devil—

ヘブル人への手紙 2章14節—14 そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、

Through the offering of Jesus' body and blood, they were now reconciled (*restored to friendship or harmony*) to God; they are now presented to God as:

このように、イエスの体と血の捧げ物によって、コロサイ人たちは、神と和解した、すなわち、友情あるいは調和を取り戻したのであり、彼らは今では、神の前で次のように表現される存在になったのです。

- **"holy"** - sanctified, set apart for God's use;
- **"without blemish"** - without being guilty of anything worthy of blame; and,
- **"free from accusation"** - guilty of nothing that can be called into account; without reproach, blameless

- 『聖なる』—聖いと見なされ、神に用いられる
- 『傷のない』—非難されるような罪を犯していない
- 『非難されることのない』—非難されるような罪もなく、咎も無い

Did you notice that this wonderful condition is how GOD viewed them -- **"in His sight"** (v.22)?

このような素晴らしい霊的な状態は、神様がコロサイ人たちをどのように見ておられたか、つまり「神の御前」(22節)で彼らがどのような状態に見えていたか、ということだと気がついたでしょうか？

詩篇32篇1-2節に、罪や咎めの無い人について、次のように書かれています。

Psalm 32:1~2 - ¹ *Blessed is the one whose transgressions are forgiven, whose sins are covered.*
² *Blessed is the one whose sin the Lord does not count against them and in whose spirit is no deceit.*

詩篇32篇1-2節—1 幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。2 幸いなことよ。主が、咎をお認めにならない人、その霊に欺きのない人は。

次に、コロサイ人たちの霊的な道のりの最後の段階、第三段階は、『将来を見据えた人生には、逆風や反対、落胆があっても、霊的状态を維持する忍耐が必要』ということでした。

C. **Phase 3: Their life's future orientation needs perseverance, to maintain this state in spite of counterinfluences, opposition or discouragement.**

C. 第3段階: 将来を見据えた人生には、逆風や反対、落胆があっても、霊的状态を維持する忍耐が必要

- They need to **continue in the faith**;
- They need to remain **established and firm**; and,
- They need **not be moved away from the hope of the gospel**.

霊的な状態を維持するためには、次のような忍耐が必要となります。

- 彼らは、信仰に踏みとどまる必要があります。
- 彼らは、しっかりとした土台の上に固く立ち続ける必要があります。
- 彼らは、福音の望みから外れない必要があります。

You see, there are many things that can trip us from our faith. For example:

- Error or false doctrine – 2 Peter 3:17
- Temptations to sin – 2 Peter 2:20~22
- Trials and hardships in life – Revelation 2:10

私たちが信仰から遠ざけるようなことはたくさんあります。例えば、次のようなことです。

- 誤りや間違った嘘の教え – 第2 ペテロ 3:17
- 罪の誘惑 – 第2ペテロ2:20-22
- 人生の試練と苦難 - 黙示録2:10

Our Lord Jesus gives us other hints in the **Parable of the Sower** concerning those who fall away.

主イエスは、『種をまく人のたとえ』の中で、墮落する人々について次のように話しておられます。

Matthew 13:18~22 - ¹⁸“Listen then to what the parable of the sower means: ¹⁹When anyone hears the message about the kingdom and **does not understand it, the evil one comes and snatches away** what was sown in their heart. This is the seed sown along the path. ²⁰The seed falling on rocky ground refers to someone who hears the word and at once receives it with joy. ²¹But since they have **no root**, they last only a short time. **When trouble or persecution comes because of the word, they quickly fall away.** ²²The seed falling among the thorns refers to someone who hears the word, but **the worries of this life and the deceitfulness of wealth** choke the word, making it unfruitful.

マタイの福音書13章18-22節

18 ですから、種蒔きのたとえを聞きなさい。19 御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。20 また岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。21 しかし、自分のうちに根がないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。22 また、いばらの中に蒔かれるとは、みことばを聞くが、この世の心づかいと富の惑わしとがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。

The Book of Psalms gives counsel about the blessed life, being firmly grounded and being fruitful.

また、詩篇には、祝福された人生、しっかりと地に足をつけた人生、実りある人生についての助言が次のように記されています。

Psalm 1:2~3 - ² *but whose **delight** is in the law of the Lord, and who **meditates** on his law day and night.*

³ *That person is like a tree planted by streams of water which yields its fruit in season and whose leaf does not wither—whatever they do prospers.*

詩篇1篇2-3節—2 まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ。3 その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。

A persevering life is a fruitful life.

このように、忍耐強い人生は、実りある人生となるのです。

それでは、このようなコロサイの信者への教えを、私たちが生きる現代にどのように適応していけば良いのでしょうか？

II. The contemporary application

II. 現代にどのように適応させるか

A. Their condition and our condition. The Colossian believers' spiritual condition prior to their salvation was not rare.// It's true that they had been wicked sinners, enemies, and alienated from God. But, we were like them too! Hence, it applies to everyone who comes to Christ for salvation.

A. コロサイの信者の霊的状态と私たちの霊的状态を考える。コロサイの信者の救われる前の霊的な状態は、決して珍しいものではありませんでした。確かに彼らは、以前は、邪悪な罪人であり、敵であり、神から離されていました。しかし、私たちも、救われる前はコロサイの人々と同じ状態だったのです。ですから、このことは、救いのためにキリストのもとに来るすべての人に当てはまるのです。

エペソ人への手紙とテトスへの手紙には、私たちの、救われる前の霊的状态のことが次のように書かれています。

Ephesians 2:1~3 - *As for you, **you were dead in your transgressions and sins**, ² in which you used to live when you followed the ways of this world and of the ruler of the kingdom of the air, the spirit who is now at work in those who are disobedient. ³ All of us also lived among them at one time, gratifying the cravings of our flesh and following its desires and thoughts. Like the rest, we were by nature deserving of wrath.*

エペソ人への手紙 2章1-3節—1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、2 そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

Titus 3:3 - *At one time we too were foolish, disobedient, deceived and enslaved by all kinds of passions and pleasures. We lived in malice and envy, being hated and hating one another.*

テトスへの手紙3章3節—3 私たちも以前は、愚かな者であり、不従順で、迷った者であり、いろいろな欲情と快樂の奴隷になり、悪意とねたみの中に生活し、憎まれ者であり、互いに憎み合う者でした。

B. Beware of sin. We have learned already that sin is serious, terrible and enslaving. And, God's character requires holiness and justice. To better understand how diametrically opposed sin and God's holiness, just consider what one (1) sin can do: It can make us guilty as though we have broken the entire law!

B. 罪に気をつける。私たちはすでに、罪が深刻で、恐ろしいものであり、私たちに奴隷にするものであることを学びました。そして、神様の性質には、聖さと正義が不可欠です。罪と神様の聖さがいかに正反対であるかを理解するために、一つの罪が何をもたらすかを考えてみてください。一つの罪は、私たちが、まるで律法の全てを破ったかのように、私たちに有罪にしてしまうのです。

ヤコブの手紙には、一つの罪が何をもたらすかが、次のように書かれています。

James 2:10 - For whoever keeps the whole law and **yet stumbles at just one point is guilty of breaking all of it.**

ヤコブの手紙2章10節—10 律法全体を守っても、一つの点でつまずくなら、その人はすべてを犯した者となったのです。

Not only the issue of **guilt**, consider also the **price** necessary to redeem us from sin -- the death of God's only Son! Have you ever contemplated on the "words of anguish" uttered by Jesus as He bore our sins upon the cross?

さらに、罪の問題だけでなく、私たちに罪から贖うために必要な代償、つまり神のひとり子の死のことを考えてみてください。イエスが私たちの罪を背負って十字架にかけられたときに発せられた「苦悩の言葉」について考えたことがありますか？

マタイの福音書27章46節をお読みします。

Matthew 27:46 - About three in the afternoon Jesus cried out in a loud voice, "Eli, Eli, lema sabachthani?" (which means "My God, my God, why have you forsaken me?").

マタイの福音書27章46節—46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

C. Trust only Christ for salvation. Our friendship with God is made possible ONLY through Jesus' death on the Cross. Any human effort cannot reconcile us back to God. The Bible is telling us that we cannot save ourselves – not even by going to church, giving to charity, or feeding the hungry.

C. 救いのためにキリストだけを信じる。神様との友情は、イエス様の十字架の死によってのみ可能となりました。どんな人間の努力を持ってしても、私たちと神様を和解させることはできないのです。聖書は、私たちが自分で自分自身を救うことはできないと教えています。私たちが、教会に行ったり、慈善団体に寄付したり、飢えた人々に食べ物を与えたりしても、自分で自分自身を救うことはできないのです。

Please don't get me wrong: **"good works"** are essential as disciples of Jesus Christ.

しかしここで、誤解しないでいただきたいのは、イエス・キリストの弟子として「良い行い」は欠かせないということです。エペソ人への手紙とテトスへの手紙には、良い行いに励むように、次のことが書かれています。

Ephesians 2:10 - *For we are God's handiwork, **created in Christ Jesus to do good works**, which God prepared in advance for us to do.*

エペソ人への手紙2章10節—10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。

Titus 3:8 - *This is a trustworthy saying. And I want you to stress these things, so that those who have trusted in God may be careful **to devote themselves to doing what is good**. These things are excellent and profitable for everyone.*

テトスへの手紙 3章8節—8 これは信頼できることばですから、私は、あなたがこれらのことについて、確信をもって話すように願っています。それは、神を信じている人々が、良いわざに励むことを心がけるようになるためです。これらのことは良いことであって、人々に有益なことです。

But ultimately, we are **"justified"** (declared **"not guilty"**) by Christ's blood (Romans 5:9). Again, only **"His blood"** can cleanse us from sin! (See, Ephesians 1:7; 1 John 1:7). Only in this way can we be **"holy in his sight, without blemish and free from accusation"** (Colossians 1:22).

しかし、最終的には、私たちはキリストの血によってのみ「義」とされる、すなわち「罪がない」と宣言されるのです(ローマ5:9)。繰り返しますが、「キリストの血」だけが私たちを罪から清めることができます。(エペソ1:7; 1ヨハネ1:7参照)。このようにしてのみ、私たちは「御自身の前に聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者」(コロサイ1:22)になることができます。

Conclusion/Application

What have we learned from today's passage?

では、今日の聖書箇所から、私たちは何を学んだでしょうか。

First, it's a reminder to us Christians of where we once were – **"Once you were alienated from God and were enemies in your minds because of your evil behavior"** (v.21).

まず、私たちクリスチャンが、かつてはどのような状態であったのかを思い出しましょう。21節には、「あなたがたも、かつては神を離れ、心において敵となって、悪い行いの中にあつたのです」と書かれています。

Second, it's a reminder of the blessings we now enjoy in Christ – **"He has reconciled you by Christ's physical body through death to present you holy in his sight, without blemish and free from accusation"** (v.22).

第二に、私たちが今、キリストにあって享受している祝福を思い出してください。

22節には次のように書かれています。「今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させていただきました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。」

Finally, it's also a reminder of the need to remain faithful to the end – **"Continue in your faith, established and firm, and do not move from the hope held out in the gospel"** (v.23).

最後に、「ただし、あなたがたは、しっかりとした土台の上に堅く立って、すでに聞いた福音の望みからはずれることなく、信仰に踏みとどまらなければなりません。」と、私たちが最後まで忠実であることの大切さも、23節に書かれています。